

校長通信 調和

発行
校長 寺島克彦
〒384-0023
小諸市東雲4-1-1
TEL 0267-22-0216

題字 渡邊虚舟

本校の図書館の活用や読書活動の取り組みが 文部科学大臣表彰!

本校では、朝読書や図書館を利用した授業など、図書館を中心とした様々な学びが展開されていますが、この度その取り組みに対して、「令和2年度子供の読書活動優秀実践校の文部科学大臣表彰」を受けました。

寺島校長(左)から表彰状を受け取る富沢さん(左から2人目)と掛川さん(同3人目)、蓬田さん(右)



小諸高の朝読書 表彰

書評合戦続ける上田・塩田西小も

小諸高校(小諸市)は、本年度の「子供の読書活動優秀実践校」として文部科学大臣表彰を受けた。同校は通常の朝読書や、校内の図書館を活用した授業などを積極的に推進。表彰は初めてといい、25日に同校で表彰状の伝達があった。

同校図書館の蔵書は約2万2千冊。タブレット端末42台がそろつ。生徒は英語や歴史の調べ学習など幅広い授業で図書館を利用し、「使わない教科はないほど」(蓬田美智子 学校司書)という。授業での

小諸高校(小諸市)は、本年度の「子供の読書活動優秀実践校」として文部科学大臣表彰を受けた。同校は通常の朝読書や、校内の図書館を活用した授業などを積極的に推進。表彰は初めてといい、25日に同校で表彰状の伝達があった。

同校図書館の蔵書は約2万2千冊。タブレット端末42台がそろつ。生徒は英語や歴史の調べ学習など幅広い授業で図書館を利用し、「使わない教科はないほど」(蓬田美智子 学校司書)という。授業での

利用時間は数年で倍増し、2019年度は約390時間だった。図書委員会が呼び掛け、同年度から通年で全生徒が朝読書をするようになった。ともに3年生で、図書委員会委員長の掛川藍さん(18)や副委員長の富沢和加さん(17)らが25日、寺島克彦校長から表彰状を受け取った。掛川さんは「これからも足を運びやすい、居心地のいい図書館をつくりたい」と喜びを語った。

東信地方では上田市塩田西小学校も文部科学大臣表彰を受けた。15年に始めた「フリ

オバトル(書評合戦)の活動が評価された。当時の学校司書が図書館に通っていた児童に声を掛け、休み時間にお気に入りの本を紹介し合うようになった。児童の要望で19年度にはクラブが発足。地域の書店員が加わったり、屋外でピリオバトルをしたりしてきた。

表彰は、子どもの特色ある読書活動を推進する団体などを対象に、02年度に始まった。本年度は全国の135校、46の図書館、47の団体・個人が選ばれた。

図書委員長・掛川藍さん、副委員長の富沢和加さんをはじめとする図書委員の皆さんと、図書館司書の蓬田美智子先生や係の先生方のこれまでの先進的な取り組みのおかげで、本校での読書活動は年々活発になっています。また、タブレット端末を利用した授業についても、本校では図書館が中心となって行ってきました。表彰を受け、今後も皆さんの学びにとって欠かすことのできない読書活動・図書館活用であり続けられるよう、図書委員会の取り組みに期待しています。

《文部科学大臣からのメッセージ》

「令和2年度子供の読書活動優秀実践校の文部科学大臣表彰」を受けられた皆様へ

「令和2年度子供の読書活動優秀実践校の文部科学大臣表彰」を受けられた皆様、誠におめでとうございます。皆様方の日頃からの読書活動へのご尽力に対し、心から敬意を表します。

文部科学省では、毎年4月23日の「子ども読書の日」に、子供の読書を推進する活動において特色ある優れた実践を行っている学校、図書館、団体、個人の方を表彰しております。

今年度も、本来であれば皆様方に御出席いただき表彰式を開催させていただく予定でしたが、現下の新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み、やむを得ず指揮を中止させていただきました。皆様に直接お会いして感謝とお祝いの言葉をお伝えできないことは誠に残念ですが、表彰状をお送りさせていただきますので、お収めください。

今日、我々を取り巻く環境は、「人生100年時代」や「超スマート社会」の到来など、社会の激しい改革の中にあります。先を見通すことの難しい時代において、子供たちが主体的に社会に参画し、活躍していくためには、主体的な学びを通じて、自らの意思で道を切り拓いていく力や、他者とのコミュニケーション力を育むことが極めて重要になります。

読書は、子供たちにとって、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付ける上で欠かせないものです。

読書を通じて、様々な世界や人、出来事、考え方などに触れることは、子供たちの大きな成長につながるものです。また、良い本との出会いは、いつまでも心に残り、一生の宝物になることもあります。

子供たちが読書に親しみ、心豊かに成長できるようにするには、社会全体で環境を整備し、読書活動を盛んにしていく必要があります。文部科学省としても、今後とも読書活動の普及・推進に努めてまいります。

皆様方には、今後とも未来を担う子供たちの読書活動への支援に御尽力を賜りますようお願い申し上げます。皆さんの今後ますますのご活躍を祈念し、お祝いのメッセージといたします。

令和2年4月23日 文部科学大臣 萩生田光一

コロナ禍の中、OBも頑張っています！

信濃毎日新聞に表彰に関する記事が出た同日（5月27日）の紙面（「くらし」15面・ライフスタイル・見つけた地方の宝）に本校の卒業生、金田渚さんの活躍が紹介されています。

現在はシステムエンジニアとして活躍する金田さんが、その勤務の傍ら、ふるさとの芸能「新野の盆踊り」を継承するために、地域の将来を考え、取り組んでいることが紹介されています。

金田さんの出身の下伊那郡阿南町新野のこの盆踊りは、日本国内の民族芸能の中でも大変歴史があり（約500年前から続いているとのこと）「国重要無形民俗文化財」にも指定され、毎年8月14日から16日にかけて、夜9時から翌朝6時まで夜通し行われるこの盆踊りには、県内外から多くの観光客が訪れています。

また、同じ新野の芸能「新野の雪まつり」（国重要無形文化財）も有名で、これまでも様々なメディアで紹介されていました。

そんな優れた地域文化を持つ土地柄があつてか、新野（阿南第二中学校）の出身で、本校の音楽科に入学する生徒が続いた時期がありました。当時、そんなご縁もあつて、阿南第二中学校で本校生徒と阿南第二中学生との合同の演奏会を開催していただいたこともあります。

一方、日本の各地域でみられる過疎化は新野においても例外ではなく、金田さんはITを活用して様々な継承活動に取り組んでいるとのことでした。

金田さんの本校在学中は、自宅を離れアパートでの自炊生活でした。一歳下で本校に入学した妹さんも同居して通学していました。いつも明るく元気な金田姉妹。懸命に声楽の練習や勉強に向かっている姿が印象的でした。

進路を選択する時、一生をイメージすることはなかなかできません。でも「これ」と決めて打ち込めば、その道一筋とはいかなくても、その努力の成果は必ず積み重なって、次の新たな展開が見えてきます。この記事を読んでそんなことを感じました。

著作権の関係で、ここに記事を掲載することは出来ませんが、図書館には年間の信濃毎日新聞が全て保管されていますので読んでみてください。

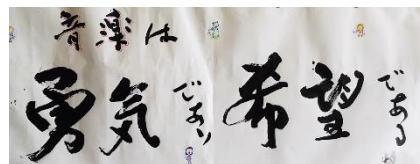
おすすめ YouTube

本校OB、和光 憂人さん（ヴァイオリン奏者）の演奏です。

タイトル：Shetland Air V1 Duo Ver. Yuto Wako & Yuriko Ito 2020.5.13

曲目：「シェットランドエア（スコットランド民謡）」 https://www.youtube.com/watch?v=IVA5Cx_NB18

〈和光 憂人さんプロフィール〉



（渡邊先生より、音楽科棟に掲示）

長野県佐久市出身。小諸高校音楽科卒業。給費生として昭和音楽大学卒業。松本音楽文化ホール新人演奏会出演。ザルツブルク＝モーツァルト国際室内楽コンクール2017第1位。第16回万里の長城杯国際音楽コンクール第1位、併せて中国駐大阪領事賞受賞。第2回FUGA国際音楽コンクール金賞受賞。その他、多数のコンクールで上位入賞。CDは『GHIBLI I』、『GHIBLI II』の2枚をアーツスプレッドよりリリース。また、テレビ番組やラジオ等に多数出演。現在、レジデンスアーティストとしてとかちプラザに勤務し、十勝の子供たちへの弦楽器の指導をはじめ、様々な音楽普及活動を積極的に展開、また全国各地でも活発な演奏活動を行っている。